

タイヤの生産工程、児童学ぶ

説明を受けながらブリヂストン
防府工場を見学する中関小学校
5年の児童たち＝防府市浜方

ブリヂストン防府工場

防府市浜方の中関小学校の5年生約120人が、学校の近くにあるブリヂストン防府工場(鈴木崇工場長)を見学し、タイヤができるまでの工程を学んだ。

児童たちは2日間に分け、2クラスずつ徒歩で工場を訪問。防府工場は中関小の12倍の広さがあり、1日に乗用車用タイヤ約1万4千本、鉱山・建設車両用タイヤ約650本を作って海外にも輸出していることなどの説明を受けた後、生産現場を見て回った。

天然・合成ゴムなどを練って板状にした「トレッド」や「スチールベルト」「ビード」といった部品を組み合わせてタイヤの形を作り、金属の型に入れて熱と圧力を加えて溝が入ったタイヤが湯気を上げ



完成すると、児童たちは「すごい」などと歓声を上げ、完成したタイヤが人の手で手際よく検査され倉庫に納められるまでを、説明を聞きながら熱心に見入っていた。

梶原夏生君(11)は「こんな部品がタイヤになるのかなと思ったけど、多くの機械と工程によってタイヤができてすごい。海外にもつながっている工場が学校の近くにあるのはうれしい」と話した。

同工場は1976年10月に創

業。当時のブリヂストンタイヤの創業者、石橋正二郎が工場予定地を見渡せる中関小を訪れた際、児童たちが明るく丁寧にあいさつして迎えてくれたことに感激し、現在地への進出を決意したという逸話が残されている。出前授業を行うなど中関小と同工場の関わりは深く、定期的に行っていた工場見学は新型コロナウイルスの影響などで7年ぶりの実施となったという。

「ブリヂストン工場見学」令和5年9月18日
山口新聞